

4. 障害給付（障害共済年金）

(1) 支給要件 1

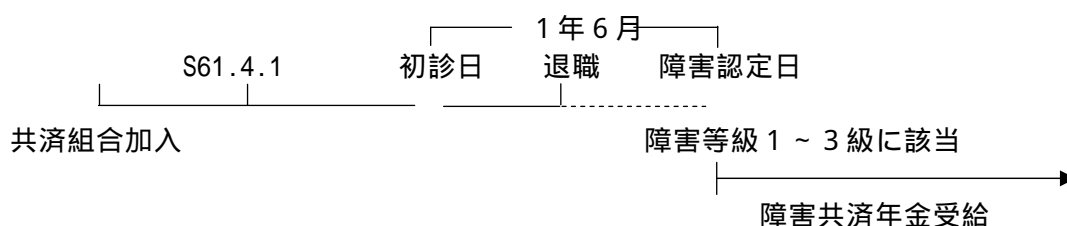
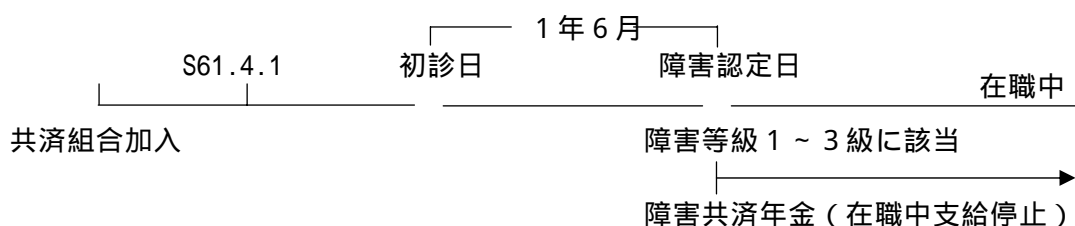
病気・傷病により初めて医師又は歯科医師の診療を受けた日（初診日）において組合員であること。

障害認定日（初診日から1年6月を経過した日，その期間内に当該傷病が治癒した日，又は当該傷病の症状が固定し治療の効果が期待できない状態に至った日）において，その傷病により共済組合が定める障害等級（1～3級）に該当する程度の障害の状態になったときに支給される。（障害等級は，身体障害者手帳の等級とは関連はない。）

ただし，特例として，次の傷病（特例7症例）による場合は，それぞれ定められた日が障害認定日となる。

【特例7症例】

人工骨頭・人工関節を挿入置換・・・その日	人工肛門又は人工膀胱造設，尿路変更施行・・・その日
心臓ペースメーカー又は人工弁装着・・・その日	上肢・下肢を切断・離断・・・その日
人工透析療法施行・・・開始から3ヶ月経過日	喉頭を全摘出・・・その日
在宅酸素療法施行・・・開始した日	

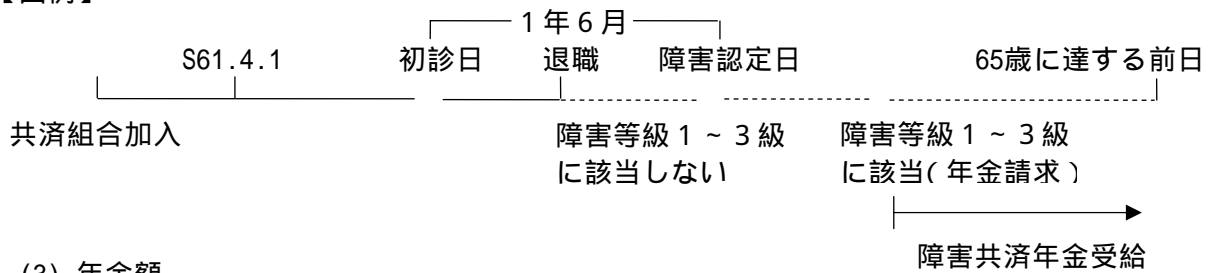


(2) 支給要件 2（事後重症）

初診日において組合員であること。

障害認定日に障害等級1～3級に該当する程度の障害状態になかったが，65歳に達する前日までに，当該傷病により障害等級1～3級に該当する程度の障害状態になり，65歳に達するまでに障害共済年金の請求があった場合。

【図例】



(3) 年金額

障害共済年金の額

ア 公務外の場合

障害共済年金の額は、次の算式により算定する。ただし、経過措置として従前の算式により算定した額が多額の場合は、その額を保障する。

*****本来水準と特例額水準との関係*****

(131頁参照)

平成16年改正法による本来の額

【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給料月額} \times \frac{7.125}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以前の} \\ & \text{組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給料月額} \times \frac{1.425}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以前の} \\ & \text{組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \end{aligned}$$

+

【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給与月額} \times \frac{5.481}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以後} \\ & \text{の組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給与月額} \times \frac{1.096}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以後} \\ & \text{の組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \end{aligned}$$

平成16年改正法による従前額改定率による従前保障

【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給料月額} \times \frac{7.5}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以前の} \\ & \text{組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \text{従前額改定率(注3)} \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給料月額} \times \frac{1.5}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以前の} \\ & \text{組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \text{従前額改定率(注3)} \end{aligned}$$

+

【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給与月額} \times \frac{5.769}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以後} \\ & \text{の組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \text{従前額改定率(注3)} \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \text{ 平均給与月額} \times \frac{1.154}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以後} \\ & \text{の組合員期間の月数} \\ & \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \text{従前額改定率(注3)} \end{aligned}$$

の年金額 < の年金額の場合は、 の年金額を保障

平成12年改正法による額(特例額水準)

【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給料月額} \times \frac{7.125}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給料月額} \times \frac{1.425}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

+

【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給与月額} \times \frac{5.481}{1000} \times \text{平成15年4月1日以後} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給与月額} \times \frac{1.096}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

平成12年改正法による従前保障額(特例額水準)

【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給料月額} \times \frac{7.5}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 1.031(\text{注4}) \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給料月額} \times \frac{1.5}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 1.031(\text{注4}) \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

+

【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】

(厚生年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給与月額} \times \frac{5.769}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 1.031(\text{注4}) \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

+

(職域年金相当部分)

$$\begin{aligned} & \text{(注1)} \quad \text{平均給与月額} \times \frac{1.154}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の} \\ & \quad \times \left\{ \begin{array}{l} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{array} \right\} \times 1.031(\text{注4}) \times 0.988(\text{注5}) \end{aligned}$$

の年金額 < の年金額の場合は、の年金額を保障

(注1) と の平均給与(給料)月額には相違がある。(122頁注1参照)

(注2) 組合員期間の月数が300月(25年)未満のときは、平成15年4月1日前後の期間で按分して300月とする。

(注3) 従前額改定率は、毎年度政令により改定される。

(注4) 平成11年度における年金額改定率。

(注5) 物価指数が低下した場合は、政令によりその分改定される。

(注6) 障害基礎年金が支給されない者(障害の程度が3級)に支給する障害共済年金について、厚生年金相当部分の額の最低保障額は、障害基礎年金の額(2級)の3/4とする。

(注7) 障害の程度(1・2級)の障害共済年金受給者は、加給年金額が加算される。

イ 公務等の場合

障害共済年金の額は、次の算式により算定する。ただし、経過措置として従前の算式により算定した額が多額の場合は、その額を保障する。

*****本来水準と特例額水準との関係*****

(131頁参照)

平成16年改正法による本来の額	平成16年改正法による従前額改定率による従前保障
【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】	【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】
<p>(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times 7.125}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数} \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases}$	<p>(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times 7.5}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数} \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \text{従前額改定率(注3)}$
+	+
<p>(職域年金相当部分)</p> $\left[\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times 12 \times \begin{cases} 0.285(1\text{級}) \\ 0.19(2\cdot3\text{級}) \end{cases} + \text{(注1) 平均給料月額}}{1000} \times (\text{注1) 組合員期間} - 300\text{月} \right] \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \frac{\text{平成15年3月までの組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}} \text{(注2)}$	<p>(職域年金相当部分)</p> $\left[\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times 12 \times \begin{cases} 0.30(1\text{級}) \\ 0.20(2\cdot3\text{級}) \end{cases} + \text{(注1) 平均給料月額}}{1000} \times (\text{注1) 組合員期間} - 300\text{月} \right] \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \frac{\text{(注2) 平成15年3月までの組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}} \times \text{従前額改定率(注3)}$
+	+
【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】	【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】
<p>(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times 5.481}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数} \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases}$	<p>(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times 5.769}{1000} \times \text{(注2) 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数} \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \text{従前額改定率(注3)}$
+	+
<p>(職域年金相当部分)</p> $\left[\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times 12 \times \begin{cases} 0.21923(1\text{級}) \\ 0.14615(2\cdot3\text{級}) \end{cases} + \text{(注1) 平均給与月額}}{1000} \times (\text{注1) 組合員期間} - 300\text{月} \right] \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \frac{\text{平成15年4月以後の組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}} \text{(注2)}$	<p>(職域年金相当部分)</p> $\left[\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times 12 \times \begin{cases} 0.23077(1\text{級}) \\ 0.14615(2\cdot3\text{級}) \end{cases} + \text{(注1) 平均給与月額}}{1000} \times (\text{注1) 組合員期間} - 300\text{月} \right] \times \begin{cases} 1.25(1\text{級}) \\ 1.00(2\cdot3\text{級}) \end{cases} \times \frac{\text{(注2) 平成15年4月以後の組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}} \times \text{従前額改定率(注3)}$
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">の年金額 < の年金額の場合は、 の年金額を保障</p>	

平成12年改正法による額(特例額水準)	平成12年改正法による従前保障額(特例額水準)
【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】	【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】
<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給料月額 × $\frac{7.125}{1000}$ × 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">× $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$</p>	<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給料月額 × $\frac{7.5}{1000}$ × 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">× $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$ × 1.031 × 0.988 (注4) (注5)</p>
+	+
<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> <p>(注1) 平均給料月額 × 12 × $\begin{cases} 0.285(1級) \\ 0.19(2・3級) \end{cases}$ + 平均給料月額</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{1.425}{1000}$ × (組合員期間 - 300月) × $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{\text{平成15年3月までの組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}}$ (注2)</p>	<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> <p>(注1) 平均給料月額 × 12 × $\begin{cases} 0.30(1級) \\ 0.20(2・3級) \end{cases}$ + 平均給料月額</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{1.5}{1000}$ × (組合員期間 - 300月) × $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{\text{平成15年3月までの組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}}$ × 1.031 × 0.988 (注2) (注4) (注5)</p>
+	+
【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】	【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】
<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給与月額 × $\frac{5.481}{1000}$ × 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">× $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$</p>	<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給与月額 × $\frac{5.769}{1000}$ × 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">× $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$ × 1.031 × 0.988 (注4) (注5)</p>
+	+
<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> <p>(注1) 平均給与月額 × 12 × $\begin{cases} 0.21923(1級) \\ 0.14615(2・3級) \end{cases}$ + 平均給与月額</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{1.096}{1000}$ × (組合員期間 - 300月) × $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{\text{平成15年4月以後の組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}}$ (注2)</p>	<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> <p>(注1) 平均給与月額 × 12 × $\begin{cases} 0.23077(1級) \\ 0.20(2・3級) \end{cases}$ + 平均給与月額</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{1.154}{1000}$ × (組合員期間 - 300月) × $\begin{cases} 1.25(1級) \\ 1.00(2・3級) \end{cases}$</p> <p style="text-align: right;">× $\frac{\text{平成15年4月以後の組合員期間の月数}}{\text{組合員期間の月数}}$ × 1.031 × 0.988 (注2) (注4) (注5)</p>
<p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">の年金額 < の年金額の場合は、 の年金額を保障</p>	

(注) 148頁の(注1)～(注7)を参照。

また、**太字部分**については、組合員期間が300月を超えるとときに適用する。

公務等の障害共済年金の額のうち加給年金額を除いた額は、それぞれ障害等級に応じ、最低保障額が定められている。

障害等級1級の場合	4,152,600円 × 改定率
障害等級2級の場合	2,564,800円 × 改定率
障害等級3級の場合	2,320,600円 × 改定率

改定率は、国民年金法に規定する改定ルールにより、政令で改定する。

< 経過措置 > 特例額水準の計算に用いる金額

障害等級 1 級の場合	4,276,600円 × 0.988 (注)
障害等級 2 級の場合	2,641,400円 × 0.988 (注)
障害等級 3 級の場合	2,389,900円 × 0.988 (注)

(注) 物価指数が低下した場合は、政令により、その分改定される。

50円未満の端数は切り捨て、50円以上100円未満の端数は100円に切上げる。

加給年金額

障害等級が1級又は2級に該当する者に支給する障害共済年金の額は、当該障害共済年金の受給権者によって生計を維持している者の65歳未満の配偶者又は、大正15年4月1日以前に生まれた配偶者があるときは、加給年金額を加算した額とする。

また、当該障害共済年金の受給権者がその権利を取得した翌日以降にその者によって生計を維持している者の65歳未満の配偶者を有するに至ったことにより加給年金を加算することになったときは、障害共済年金額を改定する。

障害の程度が変わった場合の改定

障害共済年金の受給権者の障害の程度が増進した場合にその者の請求があったとき又は、障害の程度が減退したときは、その障害の程度に応じて、障害共済年金の額が改定される。ただし、障害等級3級の障害共済年金受給者の場合（かつて、1級又は2級に該当したことがある者を除く。）には、障害の程度が65歳以上になって増進しても額の改定は行われない。

(4) 支給停止

在職中の一部支給

障害共済年金は、受給権者が組合員である間は支給が停止される。しかし、退職共済年金と同様に年金の一部が支給される場合がある。（138頁参照）

加給年金額の停止

加給年金額は、対象となっている配偶者が退職共済年金、障害共済年金等の支給を受けるときは、支給が停止される。

4 - 2 障害給付（障害一時金）

(1) 支給要件

障害一時金は、組合員である間に初診日のある公務外の傷病により退職した場合で、障害共済年金が支給されない程度の一定の障害の状態にあるときに支給される。ただし、退職したときに、年金である給付を受けることができるときは支給されない。

(2) 支給額

障害一時金の額は、次の算式により算定する。ただし、経過措置として従来の算式により算定した額が多額の場合は、その額を保障する。

*****本来水準と特例額水準との関係*****

(131頁参照)

平成16年改正法による本来の額	平成16年改正法による従前額改定率による従前保障
<p style="text-align: center;">【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times \frac{7.125}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{200}{100}$ </div> <p style="text-align: center;">+</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times \frac{1.425}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{200}{100}$ </div> <p style="text-align: center;">+</p> <p style="text-align: center;">【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times \frac{5.481}{1000} \times \text{平成15年4月1日以後の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{200}{100}$ </div> <p style="text-align: center;">+</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times \frac{1.096}{1000} \times \text{平成15年4月1日以後の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{200}{100}$ </div>	<p style="text-align: center;">【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times \frac{7.5}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{\text{従前額改定率}}{\text{(注3) 100}} \times \frac{200}{100}$ </div> <p style="text-align: center;">+</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給料月額} \times \frac{1.5}{1000} \times \text{平成15年4月1日以前の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{\text{従前額改定率}}{\text{(注3) 100}} \times \frac{200}{100}$ </div> <p style="text-align: center;">+</p> <p style="text-align: center;">【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times \frac{5.769}{1000} \times \text{平成15年4月1日以後の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{\text{従前額改定率}}{\text{(注3) 100}} \times \frac{200}{100}$ </div> <p style="text-align: center;">+</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">(職域年金相当部分)</p> $\frac{\text{(注1) 平均給与月額} \times \frac{1.154}{1000} \times \text{平成15年4月1日以後の組合員期間の月数}}{\text{(注2) 200}} \times \frac{\text{従前額改定率}}{\text{(注3) 100}} \times \frac{200}{100}$ </div>
<p>の一時金額 < の一時金額の場合は、 の一時金額を保障</p>	

平成12年改正法による額(特例額水準)	平成12年改正法による従前保障額(特例額水準)
【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】	【平成15年4月1日以前の組合員期間分の額】
<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給料月額 $\times \frac{7.125}{1000} \times$ 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 0.988$ (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>	<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給料月額 $\times \frac{7.5}{1000} \times$ 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 1.031$ (注4) (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>
+	+
<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給料月額 $\times \frac{1.425}{1000} \times$ 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 0.988$ (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>	<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給料月額 $\times \frac{1.5}{1000} \times$ 平成15年4月1日以前の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 1.031$ (注4) (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>
+	+
【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】	【平成15年4月1日以後の組合員期間分の額】
<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給与月額 $\times \frac{5.481}{1000} \times$ 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 0.988$ (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>	<p style="text-align: center;">(厚生年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給与月額 $\times \frac{5.769}{1000} \times$ 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 1.031$ (注4) (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>
+	+
<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給与月額 $\times \frac{1.096}{1000} \times$ 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 0.988$ (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>	<p style="text-align: center;">(職域年金相当部分) (注2)</p> <p>(注1) 平均給与月額 $\times \frac{1.154}{1000} \times$ 平成15年4月1日以後の組合員期間の月数</p> <p style="text-align: right;">$\times 1.031$ (注4) (注5) $\times \frac{200}{100}$</p>
<p>の一時金額 < の一時金額の場合は、 の一時金額を保障</p>	

(注1) と の平均給与(給料)月額には相違がある。(122頁注1参照)

(注2) 組合員期間の月数が300月(25年)未満のときは、平成15年4月1日前後の期間で按分して300月とする。

(注3) 従前額改定率は、毎年度政令により改定される。

(注4) 平成11年度における年金額改定率。

(注5) 物価指数が低下した場合は、政令により、その分改定される。

(注6) 厚生年金相当部分の最低保障額は、障害基礎年金の額(2級)の3/4とする。ただし、平成16年10月1日前に給付事由が生じた障害一時金にあっては、従前の最低保障額603,200円とする。

50円未満の端数は切り捨て、50円以上100円未満の端数は100円に切上げる。